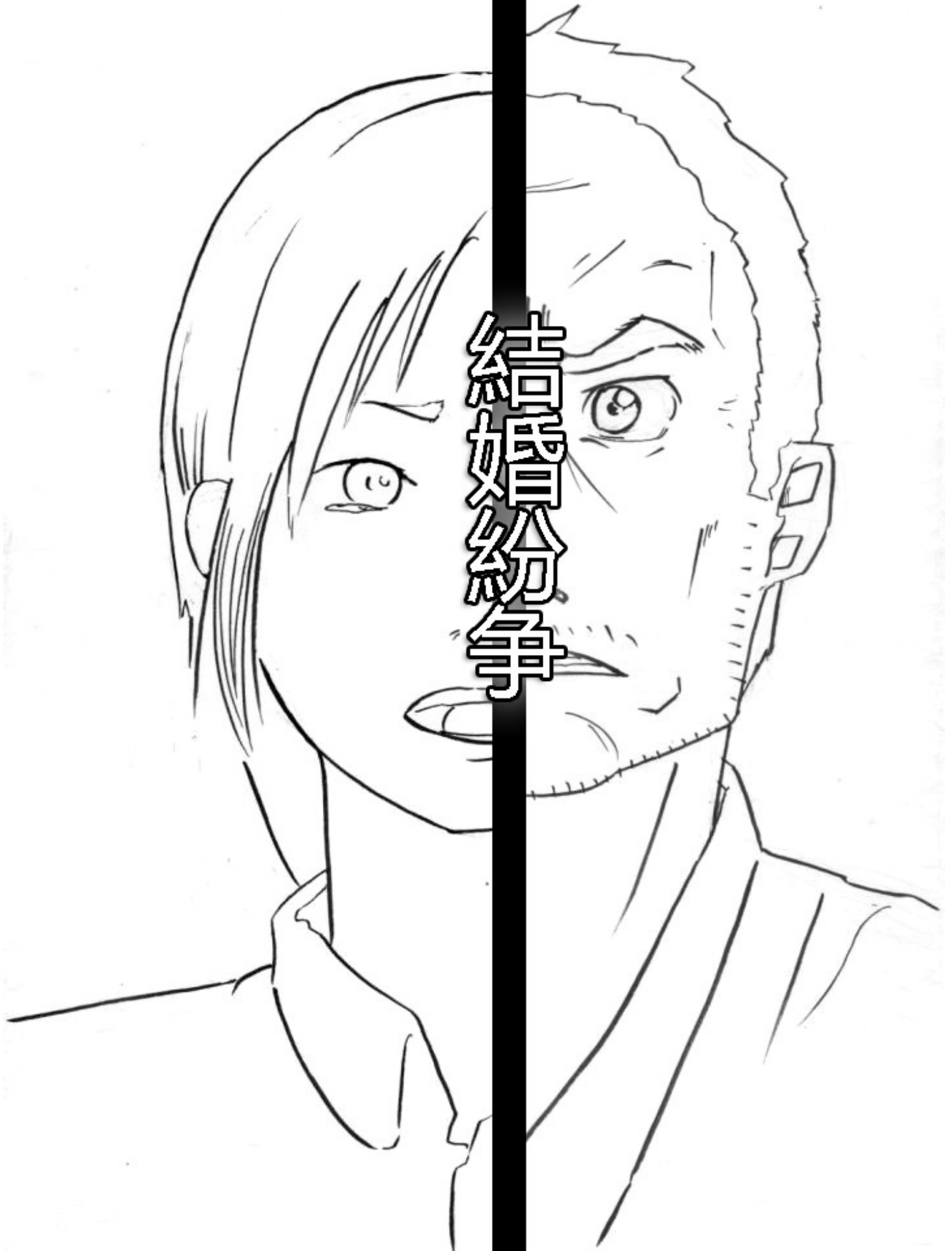


結婚紛争



結婚式

結婚紛争（始）

烏野  
博史

人物

十和真木 そわまき (28～17～8) 神主の娘

そわまさかず ※ (17～8) は写真のみ

十和正和 (60～40) 真木の父、神主

※ (40) は写真のみ

とみたよしお  
富田良男 (30) 真木の婿

① 十和家・外観（夜）

顛末神社の一角にある十和家。神社の  
灯籠には火が灯っている。鳥居の横の  
石碑には「顛末神社」と刻まれている。

② 同・真木の部屋（夜）

十和真木（28）が勉強机の前に立っ  
ている。勉強机には写真立て。  
写真立てを手に取る真木。

写真立ての中に家族写真―20年前の真  
木（8）と十和正和（40）と真木の母  
が写っている。

真木「お母さん。明日結婚するよ」

真木は正和に結婚の反対をされている  
事を考え、眉間に皺を寄せる。

③ 同・正和の部屋（夜）

押入れのある和室。押入れのふすまは  
空いている。

廊下側のふすまから真木の声。

真木の声「お父さん」

真木がふすまを開け、和室に入る。

真木が部屋を見渡す。誰もいない部屋

真木は溜息をつく。押入れから物音。

真木が押入れに近づき、覗き込もうと

すると、菓子箱を持った十和正和（60）  
が押入れから這い出してくる。

真木「お父さん！」

正和「おお真木。ちょうど良い所に来た」

真木「な、何？」

正和は箱を持って部屋の中央にあぐら  
をかき。自分の手前の畳を叩く。

正和「お前もここに座りなさい」

真木は正和に対面する形で正座をする。

真木は正和の方に身を乗り出し、

真木「お父さん——」

正和「まあ、待て待て……」

正和は視線を落とす。

正和「ちーっと考えたんだがな」

真木「……何を？」

正和「やっぱり、明日の結婚をキャンセルしなさい。それが良い。うん」

真木「……はい？」

正和「先方には俺から電話しとくから……」

真木はそそくさと立ち上がるようにする

正和の服の袖をつかむ。

真木「良いわけないでしょうが!!」

正和「こんなに強い力で引っ張るなんて……」

真木、よくぞたくましく育ってくれた！」

真木「……お父さん」

正和「――がまだまだ娘には負けん！」

正和に手を振り解かれ、真木は勢いよく倒れこむ。

正和は走り去る。

真木はわなわなと震える。

真木「理由わけぐらい話せや、くそ親父!!」

真木は和室を走り出る。

④ 同・居間（夜）

黒電話のある居間。

正和がかけ込んできて、スキップで黒電話に近づき、受話器を手に取る。

素早く袖をまくると手首に7桁の電話番号が書かれている。

正和は電話のダイヤルを回す。  
呼び出し音。

女性の声「はい。富田です」

廊下からかけ足の音。

正和が振り返ると。

正和「あつ富田さん？ 十和です」

早足の真木が居間前廊下で、正和を認めて立ち止まる。

真木「何やって……」

正和は真木を認めてニヤニヤし、真木に手を振る。

正和「良夫くんいます？」

真木「何やってんの！」

真木は正和にかけよる。

良夫の声「お電話代わりました良夫です」

正和と真木はにらみあう。

正和「富田良男君。真木の父の正和だ。考え  
たんだがやはり君には真木はやれんよ……  
だからな明日の結婚式——」

即座にフックスイッチに飛びつき、電  
話を切る真木。

真木「なな、何やってんの！ 馬鹿!？」

正和「親に向かって馬鹿とはなんだ。本気だ！

明日の結婚式は取りやめる！」

口をへの字に曲げる真木。

真木「娘の晴れの舞台を台無しにする気？」

正和「そうだ。お前にはまだ結婚は早い」

真木「ベストタイミングだろ！」

正和「大体な、お前言ったろ——」

真木「何を!？」

正和は両手で受話器を胸に抱き、

正和「(高めの声色で) 私お父さんのお嫁さ  
んになる——！」

真木「言っていない！」

正和「幼稚園卒園式の話だ」

真木「聞いてねえよ!？」



正和「忘れもしないその時は俺も――」

真木「ああー!! いつもいつも私の邪魔ばかりして楽しいわけ!？」

正和「何をだ？」

真木「知らないと思ってんの？ 中学生の時よ！ うちの神社にクラスの男子がくじを引きに来たとき追い返したでしょ」

正和は首をかしげる。

正和「知らんなあ」

真木「知らばつくないですよ！」

真木はポケットから“大吉”と書かれた紙の上に筆ペンで“大凶”と上書きされたくじを掲げる。

真木「うちのくじに大凶はないでしょ！」

正和は受話器を電話に勢いよく置き、くじを凝視する。

正和「あんの小僧供め！ あれだけ警告したのに、まだ真木に寄り付いていたか！」

大げさに溜息をする真木にそつと眼をやる正和。

正和「……俺を厄病神みたいに言うな。真木  
だって俺に助けられた事、一度や二度じゃ  
ないだろ？」

真木「そりゃあ——」

正和「そうだ。さすがにあの時は手を焼いた。

真木が高校生の時だ」

真木「え？」

正和は懐から写真を取り出す。

やまんばスタイルの真木（17）。

真木は正和から写真を奪い取る。

真木「何でこんなの持つてるの！」

正和「俺の娘は悪霊にとりつかれている、そ  
う思ったね」

真木はわなわなと震えている。

真木「ふざけんな！」

正和「ふざけてない！俺は半年悩み抜いた！

そして悪霊を退散させる事に成功した」

真木「何が!? そんなんで私を助けたと思っ  
ているわけ!? 大変だったんだから」

真木は涙ぐむ。

真木「何が悪霊退散よ！ 皮ジャン着て竹箒  
担いだイカれた親父に追い回される友達の  
身にもなってよ！ その親父が私の名前叫  
ぶんだからたまったもんじゃないわよ！」  
正和「…高校生が夜の7時に帰らないなん  
て、十分——」

真木「家によりつかないのはあんたのせい  
でしょ!?!」

正和「あん——」

真木「どこ行っても邪魔ばっか。大学で就職  
活動している時なんて露骨に、私の一時審  
査合格通知してたでしょ!?!」

正和「当たり前じゃあ！ 何の相談もなく就  
職先決めおって！」

真木「あんたのどこに相談できる要素がある  
のよ！」

正和「お前は神社を継ぐに決まってるだろ！」  
真木は目前で立てた親指を下に向ける。

真木「ざけんな！ クソ親父！」

正和「なんだ！ その汚い言葉使い！」

真木「おしとやかに言って通じる相手なら、こつちも苦労しないんだよ！」

ぼろぼろと涙をこぼす真木。

正和「お、おい真木？」

涙をふき正和を見る真木。

真木「私のやろうとしている事何でも反対して……言葉使い？ あんたが起こした問題を処理するために私は賢くなったし、あなたの妨害を乗り越える度に私は強くなったわ」

正和「な——」

真木は微笑む。

真木「（涙声で）お父さん……いつも一緒にいてくれてありがとう。真木は明日お嫁にいきます」

正和は口をあんぐり開けている。

正和「……」

真木「……」

正和の目にじわりと涙がたまる。

正和「（叫び）嫌じゃあ！」

正和はこめかみの血管を浮き立たせ、  
涙をだらだら流す。

正和「（叫び）なんで嫁に行くんじやあ！」

正和を見て、溜息をつき微笑する真木。

⑤ 顛末神社・正面

結婚式。雅樂<sup>ががく</sup>“越天樂<sup>えてんらく</sup>”の調べ。

⑥ 同・境内

結婚式。真木の友達が参列している。

奥に正和が立ち、正和と向かい会う形  
に真木と富田良夫（30）が座っている。  
目を腫らした正和を見て微笑む真木。